



実施報告書

2023 年度日系社会次世代育成研修 (大学生招へいプログラム)

2024 年 3 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

公益社団法人青年海外協力協会

目次

I	日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）概要	1
II	研修員名簿	4
III	プログラム日程	5
IV	プログラム内容	6
V	研修員所感	14
VI	総評	22
VII	添付資料（募集要項）	23

I 日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）概要

1. 研修の目的

中南米の日系社会は世代交代が進み、2世、3世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は、今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通して、日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人物を育成することを目的としています。

本研修では、将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日系子弟の大学生が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、本邦大学での研修、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツと日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを強化することをねらいとしています。

2. 研修期間

来日日：2023年6月28日（水） 離日：2023年7月21日（金）

3. 研修員内訳（名簿は4ページを参照）

研修員

- (1) 人数：20名
- (2) 出身国：ブラジル9名、ポリビア1名、パラグアイ2名、ペルー3名、アルゼンチン2名、メキシコ1名、コロンビア2名

4. 各プログラムの目的

カテゴリー	目的	講義等
導入	パワーポイントを使い、自身が暮らす町や日系社会、家族等についてプレゼンテーションを行い、互いの人となりを知る。また、他国へ移住した他の研修員の家族の歴史を聞くことで、中南米7カ国の移住の歴史について知る。	プレゼンテーション (国紹介)
	「みなとみらい地区」にある海外移住に関する記念碑等を見学し、移住学習への関心を高める。	オリエンテーリング
移住学習	時代ごとの海外移住の歴史、背景等を学ぶ。また、自身の家族の移住の歴史について理解を深める。	日系人と架け橋としてのニッケイ/ 海外移住資料館見学
	日系人のアイデンティティに関する様々な事例から、自らの日系人としてのアイデンティティについて考え、強化する。	日系人とアイデンティティとその多様性

	日系人がどのような可能性を秘めているのか等を考える。 研修の内容を振り返り、グループでのディスカッションを行い、理解を深める。	日系人のポテンシャル 振り返りディスカッション
大学研修	日本の大学での生活を体験する。 日本の学生と交流する。	大学研修（全体研修）

カテゴリー	目的	講義等
研修旅行	1. 箱根関所跡を訪れ、江戸の歴史に触れる。 2. 箱根ジオミュージアムを訪れ、火山について学ぶ。 3. 鎌倉の寺社仏閣を訪れ、日本の歴史、文化を知る。	研修旅行（箱根、鎌倉）
その他	リーダーとしての資質を学ぶ。	日本で起業されている日系人の方からの講話、学園等の視察
	現代日本の技術や文化を学ぶ。	施設見学
	発信力や自己表現力を高める。	プレゼンテーション・スキル講座
	日本へ留学するための情報を得る。	日本への留学
	日本文化を学び、日本に対する理解を深める。	日本文化ワークショップ（茶道、書道） 研修旅行（寄木細工）

5. 各カテゴリーの実施について

(1) 導入

来日前に準備したパワーポイントを使って自国の紹介を行い、これから一緒に研修を受ける研修員同士のこと、近くの国の日系社会のことを理解し合いました。

また、みなとみらい地区を散策し、海外移住に関連した記念碑等を巡る「オリエンテーリング」を実施しました。移住の歴史に関する理解が深まりました。

(2) 移住学習

移住学習では、日本人の海外移住の歴史を学び、日系人としての可能性やアイデンティティを強化するため「日系人と架け橋としてのニッケイ」「日系人のアイデンティティとその多様

性」「日系人のポテンシャル1, 2」の3つのテーマで3つの講義を行いました。講義の中では、グループディスカッションで意見交換や情報共有を行い、理解を深めました。

最終発表では、「日系人のアイデンティティ」「日系人のポテンシャル」「日系と懸け橋としてのニッケイ」「日本の文化・習慣」の中から、テーマを一つ選択し、グループで研修中に学んだことや体験したことについて発表を行いました。

(3) 大学研修について

○2023年7月3日(月)・7月10日(月) 横浜国立大学

○2023年7月11日(火) 慶應義塾大学

(4) 研修旅行

訪問先、実施内容	
7月12日(水)	箱根(箱根関所跡、芦ノ湖、大涌谷)
7月18日(火)	鎌倉(建長寺、鶴岡八幡宮、高德院大仏殿、長谷寺)

(5) その他

上記(1)～(4)のカテゴリ以外で本研修の目的達成のために必要なプログラムとして、「プレゼンテーション・スキル講座」「日本への留学」「施設見学」「日本文化体験」を実施しました。

II 研修員名簿

No.	国名	大学名
1	ブラジル	パラナマケンジ大学 医学部医学科
2	ブラジル	セザル大学 デザイン学部
3	ブラジル	ミナス連邦大学 医学部医学科
4	ブラジル	サンジョゼドリオプレット大学 医学部医学科
5	ブラジル	FECAP 大学 国際関係学部
6	ブラジル	ソロカバ大学 経営学部
7	ブラジル	パラナカトリック大学 医学部医学科
8	ブラジル	クルツライングレザ大学 文学部
9	ブラジル	ベラス・アルテス大学 グラフィック・デザイン学部
10	ペルー	サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学 工学部（産業工学）
11	ペルー	ポンティフィカル・カトリック大学 コミュニケーション科学科
12	ペルー	ペルー応用科学大学経済学部 経済学・国際ビジネス
13	パラグアイ	コムネラ大学 ビジネス・起業科
14	パラグアイ	パラグアイ アウトノマ大学 歯科技工科
15	アルゼンチン	国立ブエノスアイレス大学 社会科学部政治学科
16	アルゼンチン	国立ブエノスアイレス大学 コミュニケーション社会学
17	コロンビア	サンブエナベントゥラ大学 心理学
18	コロンビア	ハベリアナ大学 法学部
19	ボリビア	カトリック大学 医学部
20	メキシコ	モンテレー工科大学工学部メカトロニクス学科

Ⅲ プログラム日程

実施日	曜日	朝会 8:45～	9:00～ 9:50	10:00～ 10:50	11:00～ 11:50	11:50～ 13:30	13:30～ 14:20	14:30～ 15:20	15:30～ 16:20	16:30～ 17:30	場所	
6/28	水	到着日										
29	木		朝会 (9:45)	開講式	アイスブ レイク	昼休み	プレゼンテーション (国紹介)			夕会	JICA横浜 いちょう	
30	金	朝会	オリエンテーション		施設案内 国際展示室見 学	昼休み	大学研修 オリエンテーション			夕会	大会議室	
7/1	土	休日										
2	日	休日										
3	月	大学研修(全体研修) 横浜国立大学										横浜国立大 学
4	火	朝会	日系人のポテンシャル			昼休み	プレゼンテーション・ スキル講座			夕会	大会議室	
5	水	朝会	みなとみらい地区散策			昼休み	日系と架け橋としての ニッケイ			夕会	JICA横浜 会議室1	
6	木	朝会	日本文化ワークショップ(1) 書道・風呂敷			昼休み	日系人のアイデンティティと その多様性			夕会	AM:研修室A PM:大会議室	
7	金	施設見学(1) 日本科学未来館				昼休み	施設見学(2) そなエリア東京					
8	土	休日										
9	日	休日										
10	月	大学研修(全体研修) 横浜国立大学										横浜国立大 学
11	火	施設見学(3) TEPIA先端技術館				昼休み	大学研修(全体研修) 慶応義塾大学				慶応義塾大 学	
12	水	研修旅行(1) 箱根										
13	木	施設見学(4) ティー・エス学園										
14	金	朝会	報告書 オリエン テーション	日本文化 ワークショップ(2) 茶道		昼休み	日本への留学			夕会	JICA横浜 和室 やまゆり	
15	土	休日										
16	日	休日										
17	月	朝会	振り返りディスカッション			昼休み	報告書作成			夕会	大会議室	
18	火	研修旅行(2) 鎌倉										
19	水	朝会	帰国オリエン テーション	最終発表準備		昼休み	最終発表リハーサル			夕会	大会議室	
20	木	朝会	最終発表		閉講式	お礼の場	昼食	帰国準備			JICA横浜 かもめ	
21	金	離日										

IV プログラム内容

1日目【6月28日（水）】

◆ 来日

7カ国（ブラジル、ボリビア、パラグアイ、ペルー、アルゼンチン、コロンビア、メキシコ）からの研修員20名が、来日しました。

2日目【6月29日（木）】

◆ 開講式

JICA 横浜の三田村次長による挨拶、スタッフの紹介の後、研修員が自己紹介をしました。

◆ アイスブレイク

研修員同士が打ち解けられるように簡単なゲームを用いたアイスブレイクを行いました。声を出さないアクティビティでは、お互いに声の代わりに手や表情を使って一生懸命伝えよう、理解しようとする中で距離を縮めていきました。

◆ プレゼンテーション（国紹介）

パワーポイントを使って、自国や町の日系社会での活動、家族について、日本語または英語でプレゼンテーションを行いました。このプレゼンテーションにより、他国の研修員の家族のことや日系コミュニティを知ることができました。

3日目【6月30日（金）】

◆ オリエンテーション

研修中の日程や生活の決まりについて確認しました。また大学研修について、スケジュール確認と事前準備をしました。また、神奈川県立地球市民かながわプラザを見学しました。



6日目【7月3日（月）】

◆ 大学研修（全体研修） 横浜国立大学 1日目

横浜国立大学で、大学生と交流しました。6つのテーマ（農業、食、貧困、ジェンダー、多文化共生、観光）が設けられ、それぞれ学部制によるプレゼンテーションを聞きました。その後、研修員もそれぞれのグループに加わりディスカッションを行いました。2日目のグループ発表に向けて、準備を始めました。



7日目【7月4日（火）】

◆ 講義「日系人のポテンシャル」

日系人がどのような可能性を持っているか考察しました。自国の抱える課題だけでなく、日本における課題や、日本が中南米に期待していることなどを知り、「相互扶助できる関係づくりに関心を持った」と話していました。



◆ プレゼンテーション・スキル講座

講師のプレゼンテーションをモデルにポイントを学んだ後、グループでプレゼンテーションを作りました。「円滑なコミュニケーションのために自分の考えを整理することの重要性が分かった。」「それぞれのグループのプレゼンテーションを見られて面白かった。」と話していました。

8日目【7月5日（水）】

◆ 講義「日系と懸け橋としてのニッケイ」/JICA 海外移住資料館 見学

日本人の海外移住の歴史や、アイデンティティ、日本人の血を引く「日系人」と日本や日本の文化を愛し日本人や日系人と共にイベントなどに参加している「ニッケイ」の違いなどについて学びました。研修員は「家族がどのように自国に来たのか知ることができた。」「「おかげさま」という言葉を学び、これまで辛いことを乗り越えてきた家族のおかげで今の自分がある。」と話していました。



◆ オリエンテーリング

JICA 横浜周辺の「みなとみらい地区」を散策し、海外移住に関連した記念碑等を巡りました。研修員たちは戦後の日本国民を救った「ララ物資」の記念碑や、移住者の出発地となった大さん橋を訪れ、講義で学んだ歴史などの理解を深めました。



9日目【7月6日（木）】

◆ 日本文化体験 書道・風呂敷

日本の伝統文化である書道、風呂敷包みを体験しました。

書道では、どの研修員も清書の前に納得がいくまで何度も粘り強く練習しました。

風呂敷包みでは、「家族が持っているのは知っていたが、使い方がわからなかった。様々な使い方があることを知れて嬉しい。」と話し、この機会に結び方を習得しようと熱心に取り組んでいました。





◆ 講義「日系人のアイデンティティとその多様性」

講師が示した豊富な事例から、時代や環境、立場などでアイデンティティが変化すること、様々なアイデンティティがあることを学びました。グループワークで他の研修員の話聞いて、「これまで離れて生活していた研修員同士が似た考えを持っていることに気づいて驚いた。」と話していました。

10日目【7月7日（金）】

◆ 施設見学「日本科学未来館」

実際に動かせる人の動きを真似るロボットや、医療に使用される科学技術など、研修員はそれぞれに関心のある展示を見学しました。



◆ 施設見学「そなエリア東京」

災害が起きてから 72 時間をどう過ごすか、クイズに答えながら学習しました。地震の多い国の研修員は自国での備えについて考えた話し、地震が少ない国の研修員は災害への備えも日本の習慣と捉えて学びました。

13日目【7月10日（月）】

◆ 大学研修（全体研修）横浜国立大学 2日目

1日目のグループで準備した発表を行った。発表では、各テーマにおける各国の状況を交えて考察を発表しました。学生との交流を通して日本の習慣や考え方の違いにも理解を深めていました。

14日目【7月11日（火）】

◆ 施設見学 TEPIA 先端技術館

バイオで分解される繊維、3Dプリンターなど、先端技術の活用について展示を通して学びました。プログラミング体験では、ペアで協力しながら粘り強く課題に取り組みました。



◆ 大学研修（全体研修）慶應義塾大学

「異文化コミュニケーションと日本文化」「文化と価値観」をテーマに、学部生、留学生と共にワークショップを行いました。グループディスカッションを通して学部生、留学生と意見交換する中で、考え方や習慣の違いを知る一方、多くの共通点も見つけていました。

15日目【7月12日（水）】

◆ 研修旅行 箱根

箱根関所跡を訪ね、寄木細工の秘密箱づくりを体験しました。「寄木細工の木材は彩色されていないと知り驚いた。」と話していました。大涌谷では火山や自然、温泉について学びました。深沢銭新弁財天では、自身の紙幣や硬貨を洗ったり、境内の奥まで散策したりしました。新幹線に乗車した際は、「座席が広い」「速いのに揺れが少ない。」と話していました。



16日目【7月13日（木）】

◆ 施設見学 ティー・エス学園

「日本と自国の懸け橋であり、出稼ぎから経営者になられた軌跡などお話をいただきました。

講師が経営されている学園の視察や工場見学を行い、日本で生活する日系の方々の様子を知る機会になりました。研修員はわずかな時間、学園の生徒と交流しました。



17日目【7月14日（金）】

◆ 日本文化体験 茶道

日本の伝統文化である茶道を体験しました。所作の流れや意味にも関心を持って取り組みました。研修員は、「道具などがそろっていない自国で体験したものとは違うものだった。」「細かい動作にまで意味があるところが好き。」と話していました。



◆ 日本への留学

「JICA 日系社会リーダー育成事業」と日本財団による「日系スカラーシップ」の制度について、説明を受けた後、この制度で来日中の現役留学生と交流しました。本研修の参加経験がある留学生もおり、研修員は先輩方の留学生活についての話を聞くことで大いに刺激を受けました。



20日目【7月17日（月）】

◆ 振り返りディスカッション

これまでの研修を振り返り、講義や訪問先で学んだことや感じたこと、今後どう活かしていくかなどをグループで共有しまとめました。「何を学んだかが明確になった。」「リスト化したら、研修中たくさんの方を経験し、共有していたと気づいた。」と話し、最終発表で発表することについても話し合いました。



◆ 報告書作成

これから、本研修で学んだことをどのように活かすか、またどのように発信していくのか、各自の報告書を作成しました。

◆ 帰国オリエンテーション

帰国に向けて、離日日のスケジュール、荷づくりの注意点などを確認しました。

21日目【7月18日（火）】

◆ 研修旅行 鎌倉

鎌倉では、鎌倉五山のひとつである建長寺から鶴岡八幡宮、高德院大仏殿、長谷寺と寺社仏閣を訪ね、歴史的建造物や日本文化に触れました。

研修員は「宗教は違うが、寺院の建築様式や美しい庭園が素晴らしかった。」と話していました。



22日目【7月19日（水）】

◆ 最終発表準備

翌日の最終発表に向け、グループごとにスライドを作成し、リハーサルを行いました。振り返りディスカッションで出たことも踏まえて、この研修で何を学び、どう活かしていくかを話し合い、スライドを作成しました。

23日目【7月20日（木）】

◆ 最終発表

「日系人と懸け橋としてのニッケイ」「日系人とアイデンティティ」「日系人のポテンシャル」「日本文化と習慣」の4つのテーマをもとにグループ発表を行いました。

◆ 閉講式

JICA 横浜の中根所長より、修了証の授与を行い、研修員による代表挨拶で締めくくりました。



24日目【7月21日（金）】

離日

初対面で集まった研修員 20 名は、本研修を経て強い絆で結ばれました。仲間との別れを惜しみつつ、それぞれ帰国の途につきました。

V 研修員の感想

1 ブラジル/パラナマケンジ大学 医学部医学科

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

滞在中、最も素晴らしい経験をしたのは、大学訪問と学生たちとの交流でした。というのも、ブラジルで生まれ育ったからこそ、今の自分があるのであって、日本の学生とは多くの違いがあることに気づいたからです。日系ブラジル人、あるいはブラジル系日本人という自分のアイデンティティに疑問を抱かせられたからです。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

世界中の日系人の中にある日本文化の維持。これは、日本人のアイデンティティを高め、母国でのコミュニティを維持するための、非常に個人的で正確な方法です。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

私の経験を大学や日系社会で共有することで、私が経験したこの素晴らしい体験を、次の世代の人たちにも味わってもらいたいと思っています。誰もが一度は経験すべきことだと思います。

2 ブラジル/セザル大学 デザイン学部

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

一番印象に残ったのは、日本の大学生活だ。学生たちとの授業は確かに彼らと交流し、意見を交換し、話すことができたことは、日本の社会や大学を理解する上でとても貴重なことだった。日本の社会や大学を理解する上で、とても貴重なものでした。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

日本の大学での授業や小旅行などです。ダイナミックで楽しい方法で日本の社会や習慣、文化を体験することができたからです。さらに、書道や茶道などの日本文化の授業は、日本文化を理解する上で非常に重要な経験でした。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

私は日系コミュニティのためにもっと参加し、貢献するつもりです。イベントやボランティア、ワークショップに参加し、この経験を分かち合い、日本の文化や習慣をもっと知ってもらうことで貢献します。

3 ブラジル/ミナス連邦大学 医学部医学科

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

横浜国立大学と慶應義塾大学の大学生との出会いです。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

他のラテンアメリカ諸国の日系人、そして日本人学生や教授と知り合う機会を得たこと。また日本人の学生や教授と知り合う機会を得たことです。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

私たちの文化を強化するために、より多くのイベントを企画することで、日系人コミュニティでより積極的に活動します。また、他の日系人が私と同じように日本で勉強する機会を持てる

ように支援します。

4 ブラジル/サンジョゼドリオプレット大学 医学部医学科

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

日系には多くのチャンスがあることを理解しました。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

研修旅行や施設見学は、日本文化を見せてくれ最高でした。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。
より積極的に参加します。

5 ブラジル/ FECAP 大学 国際関係学部

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

講義「日系人のポテンシャル」「日系人と懸け橋としてのニッケイ」に感銘を受けました。また、大学での日本人学生との交流も素晴らしかったです。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

日系社会と日本社会との交流について学んだ、新しい視点でした。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。
若い人たちのグループに参加し、ソーシャルメディアで共有するなど、プログラム中に得た知識を広めるための解決策を見つけたい。また、もっと多くのイベントに参加したいです。

6 ブラジル/ソロカバ大学 経営学部

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

日本人学生、特に横浜国立大学の学生と一緒に過ごした3日間です。私にとって、彼らと一緒にいる時間は、日本人と日常的なこと、共通すること、異なることについて話すことができる唯一の時間でした。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

このプログラムを通して多くのことを学ぶことができましたが、私にとっては、もっと学びたいという気持ちが一番有益でした。今まで考えたこともなかったようなことを学び、考えさせられ、このプログラムに参加しなければおそらく出会うことができなかつたであろう人々に出会えたということです。そして、この気持ちを友人たちと分かち合いたいです。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。
帰国してからは、日本への留学に興味を持っている友達が何人かいるので、この研修のことを友達に話したり、Tsudoi という日本語学校の生徒が集まるイベントで発表したりしました。

7 ブラジル/パラナカトリック大学 医学部医学科

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

全般的に、すべてが興味深く、プログラムも整っていました。この期間は、いろいろな種類の日本食を試してみたかったのですができなかったのですが、次の機会には、もっと自由に新しい場

所を訪れたり、食べ物を選んだりしたいです。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

日系アイデンティティと日本文化についての講義です。また、日本の大学との連携やラテンアメリカの日系人との連携です。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

日系のコミュニティで応急処置の手順についてのワークショップに取り組んでいます。

8 ブラジル/クルツライングレザ大学 文学部

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

研修の後、街を散策したり観光したりする自由時間があったこと、そして活動中に休憩時間があったことは、しばらくのリフレッシュに役立ったと思います。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

文化活動、講義、研修旅行です。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

私の経験を分かち合い、興味を持つ人たちに話すことで、次の世代の人たちがプログラムを探し、日本語を学ぶ動機付けにします。

9 ブラジル/ベラス・アルテス大学 グラフィック・デザイン学部

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

茶道は、日本の伝統と歴史を示していて印象的でした。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

さまざまな人々と交流する機会でした。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

私は自分の日系コミュニティと再びつながろうと思っています。大学に入学して以降、私は自分のコミュニティから離れなければなりません。このプログラムで日系人とのつながりの大切さを実感することができました。

10 ペルー/サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学 工学部（産業工学）

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

街並み、文化、言葉、交通システム、授業、人々など、毎日感動していました。まず、ワークショップが本当に楽しかったです。日本の文化を体験し、同時に学ぶことができたからです。日本の文化には、今の社会に反映されているような細かい部分やマナーがたくさんあります。また、日系人のアイデンティティについての講義では、世界中で成功した日系人の例をたくさん見ることができました。彼らの中には、私たちと同じようにアイデンティティの問題を抱えながらスタートし、経済的な問題を経験した人もいたことは、とても刺激的でした。それにもかかわらず、彼らは懸命に働き、自分たちのアイデンティティを受け入れることを学んでいます。また、日本の大学生と交流し、彼らの日常生活や日本文化に対する考え方を聞くことができたのも興味深かったです。大学生活で一番大変なのは入学試験で、その後は成績を維持する

のがとても簡単だということは知りませんでした。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

日系コミュニティと日系人であることについての授業でした。私は、日系人であることについてはよく知っているし、主な日系人のことも知っていると思っていました。しかし、このプログラムのおかげで、日系人や日系人であるという概念について知るだけでなく、自分自身についてより深く知ることができました。プログラムに参加している同年代の日系人や、日本で奨学金を受けている日系人と経験や考えを共有することで、私たちは一人ではなく、自分たちのアイデンティティを受け入れ、両方の文化から最高のものを得るために、励まし合える仲間がいることに気づかされました。目標を達成し、自分の道を切り開いた多くの素晴らしい人たちの話を聞き、出会ったことで、私もベストを尽くそうと思うようになりました。日本社会と交流することで、日本がいかに進んでいるかを実感できたからです。日本人と日本語で話したり質問したり、特定のことを自分で買ったり、日本人に自分のことを説明したり、日本語が苦手な私でも、日本人と交流した甲斐がありました。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

文化を次の世代に伝えていくことは、私たちのアイデンティティであり、一族の歴史の一部であるため、とても大切なことだと確信しています。そのため、私は沖縄舞踊教室に所属しているので、日系コミュニティで開催される活動やイベントのサポートに励みたいと思います。また、自分の経験を友人や家族と分かち合い、日系人として様々な機会があることを伝えたいと思います。

11 ペルー/ポンティフィカル・カトリック大学 コミュニケーション科学科

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

講義も研修旅行も本当に楽しかったです。講義は興味深いトピックについてで、私の興味を簡単に引きました。研修旅行については、日常から離れ、日本の社会や現実についてより深く知るための素晴らしい方法でした。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

講義と日本の日常生活の体験が補完し合うことです。オンライン研修と比較すると、日本にいる点が違います。体験はより豊かで、言葉を実践することができます。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

自分のコミュニティでもっと積極的に活動し、さまざまなスペースやグループに参加し、他のコミュニティと一緒に活動を展開することで、メンバーのアイデンティティを高め、コミュニティの一員であることを実感できるようにしたいです。

12 ペルー/ペルー応用科学大学 経済学部 経済学・国際ビジネス

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

講義「日系人のポテンシャル」です。これは、日系人であることの意味や感情、そして私たちが経験しなければならないあらゆる状況について、多くのことを説明してくれました。また、(研修全般について)日本の価値観や文化にとっても感銘を受けました。なぜなら、人として、

社会として、国として成長するためには、誰もが日本人のようになることを学ばなければならないと思うからです。個人的には、日本は様々な面でお手本となる国なので、とても好きです。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

日本人が世界に移住した歴史を学び、日本の衣装や伝統を実践し、JICA 研修員全員と経験や素晴らしい瞬間を共有し、日本の文化、衣装、言語を実践し、新しい食べ物に挑戦したことです。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

講演をしたり、研修プログラムについて話したり、私の個人的なコメントや経験を伝えたり、私のコミュニティの歴史のために記録される報告書を書いたり、インスタグラムのようなソーシャルメディアを使って情報を広げたり、若い人たちの社会参加を促すような新しい活動をしたりします。このまま何もせずいたら、何年か後には私のコミュニティは消滅してしまうと危惧しています。

13 パラグアイ/コムネラ大学 ビジネス・起業科

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

横浜大学の学生たちとの出会いは、私が日本について抱いていた多くの疑問に答えてくれました。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

私は日系コミュニティの役員になりたいと思っています。 そうすれば、そのコミュニティが成長するのを本当に手助けする機会を得ることができるからです。

14 パラグアイ/パラグアイ アウトノマ大学 歯科技工科

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

最も印象的だったことは様々な国からきた日系人たちとの出会いです。自分たちの文化を語れることができ、日本で出会った大学生たちと一緒に楽しく学べるのが私にとってかけがえのない思い出になりました。その他日系人としてのアイデンティティは人、場合によって違う意味があり、人はその日系人としての個性を生かすことができることがこの研修でよくわかりました。

- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

日本の大学生たちとの連絡を取れることで新たな出会いがありました。パラグアイに来た横浜大学生たちと自分の国と日系パラグアイ人を知ってもらえて心から嬉しく思います。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

この JICA の経験のことを語りたと思っています。このプログラムみたいに日本でしかできない経験をほかの日系人に知ってほしいと思っています。

15 アルゼンチン/国立ブエノスアイレス大学 社会科学部政治学科

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

横浜大学で授業を受けたことは、私にとって最も印象的な出来事のひとつでした。日本での授

業がどのようなものなのか想像もつきませんでした。すべてが素晴らしかったです。日本の学生と話すのは楽しかったし、日本に住む若者の日常生活について多くのことを学びました。また、私たちの国の社会問題について討論するのはとても興味深かったです。特にジェンダーの問題について。海外の人たちと意見を交換する機会を持てたことは、私にとってとても有意義でした。

・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

講義とペアあるいはグループでのディスカッションでした。講義は、自分が当たり前だと思っていたことについて自問自答を始めるきっかけとなりました。この研修に参加するまでは、日系人であることのさまざまな意味について考えたことはありませんでした。他の研修員と経験を交換するのはとても興味深かったです。お互いの国が離れているにもかかわらず、思った以上に多くの共通点を見つけることができました。

・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

日系コミュニティの活動やイベントに参加し続けることです。このプログラムに参加したからには、学んだことをすべて伝え、活かしていきたいと思っています。その一方で、社会科学の分野で日系研究に貢献するために、日本文化について研究・調査することも楽しみにしています。私の目標は、日系人同士の絆を深めるとともに、日本文化を社会と共有し、広めていくことです。

16 アルゼンチン/国立ブエノスアイレス大学 コミュニケーション社会学

・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

日本の大学生との交流です。私たちは友人を作り、自分たちの文化や考え方を分かち合う機会を得ました。一生忘れられない貴重な体験でした。

・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

「日系人のアイデンティティ」「日系と懸け橋としてのニッケイ」「日系人のポテンシャル」の講義です。渡したちのコミュニティでは普段口にするのではないけれど、それでも考えるべき本当に重要なトピックについて議論し、意見を交換する機会がありました。

・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

私は日系コミュニティの活動に参加し続けたいです。組織作りを手伝うだけでなく、今は少しずつ、新しい世代の企画や指導にも携わっています。

17 コロンビア/サンブエナベントゥラ大学 心理学

・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。

公立大学と私立大学の違いです。また、感銘を受けたのは講義をしてくれた先生方の、私たちの質問に対して説明し、答えを与えてくれる能力です。もうひとつ印象に残ったのは、私たちが訪れたすべての寺院で、それぞれの寺院で異なる経験と異なる感覚を得たことです。

・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

研修中、日系人であることをより認識し、自分の祖先がどこから来たのかを学ぶことができましたので、すべてが役に立ちました。また、国公立大学と私立大学の両方を経験できたことも

とても役に立ちました。

- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。
コロンビアに戻ったら、日本コロポ協会の理事や私の大学とミーティングを開き、日本での経験や、私の文化や研修で学んだことをどのように役立てることができるかを発表し、協会内では、JICA が持っている奨学金制度に参加するよう若い人たちに呼びかけ、私たちの文化を学ぶことは貴重なことだということを失わないようにするつもりです。

18 コロンビア/ハベリアナ大学 法学部

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。
大学生と交流し、自分の生活スタイルを共有し、彼らの生活を知ることができたことです。私とは生活スタイルが違うと思っていたけれど、同じ若者として、共通の活動もたくさんありました。
- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。
自分の祖先の歴史、日本人移住者について、日本文化について、そして日系コミュニティの持続可能性を保証するために、この奨学金で得た知識は有益でした。
- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。
自分の経験を若い日系コミュニティと分かち合い、彼らにこの奨学金に応募してもらい、参加してもらうことで、私たちの日系人としてのアイデンティティを継承し、それをコロンビア社会の他の人々と分かち合うことができます。また、日系コミュニティを守り、維持していくことの大切さも伝えます。

19 ボリビア/カトリック大学 医学部

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。
YNU（横浜国立大学）や慶應大学の学生たちと日常的なことを話したり、興味深いトピックについてディスカッションをしたりしたことです。
- ・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。
日本だけではなく、いろいろな国の人たちと出会えたことと、みんなの経験が聞けたことです。
- ・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。
私の日系コミュニティの活動に積極的に参加し、お手伝いをしたいですし、もっと日本文化を広めたいと思っています。それから、いろんな人に研修のことを知ってもらえるようにしたいです。

20 メキシコ/モンテレー工科大学 工学部メカトロニクス学科

- ・研修中にもっとも印象的だったことをおしえてください。
日本の文化では、風呂敷や茶道など、「単純」なものがとても複雑になることに驚きました。講義は、自分のルーツとのつながりを感じさせてくれるものでした。また、多くの素晴らしい人々に出会い、多くの刺激を受けました。

・この研修でいちばん有益だったと思うことはなんですか。

日本の考え方を深く理解することができたので、今後一緒に仕事をする上でとても役に立つと思います。

・あなたは帰国後、身近な日系コミュニティに対してどのように関わっていきたいと考えていますか。

地域に日系人を集めたいです。日本の伝統やルーツに沿った日系人グループを作りたいです。日本の行事にもっと参加してもらいたいです。だから私は、日系人グループを作るところから始めようと思っています。

VI 総評

本研修は、①日本人の海外移住の歴史、自分たちのルーツ、日本文化、習慣等を学び、日本に対する理解を深めることで、日系人としてのアイデンティティを考えること、②日本でのさまざまな経験や交流を通じて、自分の考えを発信する機会を持つこと、③本研修で得た知識、研修の成果を基に、これからの日系社会をリードする発信力のある人材を育成することを目的として実施され、7カ国から計20名の研修員が参加しました。

移住学習では、3名の講師陣の講義を受け、また同世代の日系子弟たちと意見や情報交換を行うことで共感し安心した様子や、理解を深め、視野が広がり、自身にも日系社会にも可能性を見出す様子が伺えました。また、アイデンティティについてどの国にも属さないという問題はあるかもしれないが、私たちは2つの国の絆と支えになることができる」と、自身の持つ可能性に気づきがあり、前向きな声がありました。

大学研修では、全員で同じ大学を訪問して研修を受ける「全体研修」を実施しました。同世代の日本人学生その他、留学生も参加した授業に参加し、文化や価値観、課題点などをテーマにディスカッションを行いました。様々な考え方や習慣の共通点や相違点を見出し、コミュニケーションを深めていました。

研修旅行では、日帰りで箱根、鎌倉を訪れました。日本の歴史や寺社仏閣、火山、伝統文化、建築、観光など、各々の視点で学びを得ていました。

研修プログラム終了時に実施したアンケートには、「若い日系人にこのプログラムの情報を広めたい。」「自国と日本のコミュニティ間の友好関係を強化したい。」などの記載があり、「日本で戻って勉強したい。」と将来の進路に日本を挙げる声もありました。多くは自国の日系社会の維持や発展に貢献したいと語っており、非常に頼もしく感じます。帰国後、研修員たちが本研修で出会った仲間や多くの人たちへの感謝の気持ちと、先祖や家族を敬う気持ちを忘れずに、各国で周囲の方々と協力しながら日系社会をリードし、貢献していく人材になることを期待します。

Ⅶ 添付資料（募集要項）

2023年度「日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）」

1. 研修の目的

中南米の日系社会では世代交代が進み、2世、3世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は、今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通して日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人物を育成することを目的としています。

本研修では、将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日系子弟の大学生が日本人の海外移住の歴史に関する学習、本邦大学での研修、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツと日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを強化することをねらいとしています。

2. 研修員対象国および受入計画数

9カ国 20名 対象国	人数	対象国	人数
ブラジル	9名	ベネズエラ	1名
ポリビア	2名	コロンビア	1名
パラグアイ	2名	メキシコ	1名
ペルー	2名	ドミニカ共和国	1名
アルゼンチン	1名	合計	20名

3. 研修期間（予定）：24日間

来日日：2023年6月28日（水） 離日日：2023年7月21日（金）

4. 研修概要 ※プログラムの内容は変更となる可能性があります。

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館等の見学 移住に関する講義、ワークショップ 各研修員の出身国、移住地の日系移民についての歴史や文化の報告	JICA 横浜 史跡、博物館等
大学における研修	講義、研修 日本の大学生との交流等	首都及び神奈川県内の大学 （予定）
日本文化体験	日本の文化体験	JICA 横浜（予定）
研修旅行	日本の産業界との交流 日本の社会・職業文化の理解	未定

5. 宿泊（研修旅行期間を除く）

神奈川県内のホテルを予定しています。 2

6. 応募資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

- (1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫（※）であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。

- (2) 研修参加時点で、本事業対象国の高等教育機関（大学）に所属しており、かつ年齢が18歳以上30歳以下であること。
- (3) 親権者または保証人の同意が得られること。
- (4) 日常生活に支障のない日本語能力を有すること。また、日本の大学での講義を日本語または英語で受講し、かつ議論に参加できるレベルの能力を有すること。
- (5) 心身とも健康で、本邦での集団生活に耐えられること。
- (6) 原則、来日から帰国まで JICA 指定の全日程に参加できること。

7. 応募書類

- (1) JICA が指定する以下の様式を使用して応募してください。

ア. 身上書…正本1通（様式第2号）

和文、英文のどちらか一つを提出してください。

氏名：この書類に書かれた氏名の表記（漢字・ひらがな・カタカナの区別も含みます）にしたがって、ビザ申請に必要な身元保証書、受入証明書を JICA が作成します。また、研修修了証書の作成も身上書の氏名の表記を使います。読みやすい字で記入してください。

氏名アルファベット：

この氏名により、航空券の予約の確認等を行います。読みやすい字で、渡航の際に使用するパスポートに書かれているとおりに記入してください。スペル、名字と名前の順番、ミドルネームの有無に注意して記入してください。

国籍：来日に使うパスポートの国籍を記入してください。2重国籍の場合でも、今回の研修の来日に使う方のパスポートの国籍だけ記入してください。さらに、日本以外のパスポートを使用する場合は、日本国籍の有無についても記載してください。

イ. 写真…2枚

最近6ヶ月以内に撮影したもの。

（縦4cm×横3cm、上半身、正面、脱帽、裏目に氏名・国名を記入）

※1枚は身上書に貼付してください。

ウ. 健康診断書…正本1通（様式第3-A号又は第3-B号）

和文、英文のどちらか一つを提出してください。

※全ての項目を受診し、記入されているかどうか確認をしてください。未受診項目や記入漏れがある場合は受け付けられません。（既往症、レントゲン写真番号、服用中の薬など、特に留意してくだ

さい。)

※記入事項に虚偽のものと判明した場合には、研修に参加できなくなる 可能性があります。

エ. 誓約書…正本1通 (様式第4号)

和文を提出してください。(英文は参考資料です。)

※共同親権が法制化されている国では、全親権者のものが必要となります。

オ. 作文「本研修の参加目的と計画」 (様式第5号)

和文、英文のどちらか一つを提出してください。

※「本研修になぜ参加しようと思ったのか。どのような目標を持っているか。帰国後、本研修の経験をどのように活かしたいか。」について、日本語又は英語で 作文してください。

(2) 各団体・教育機関から以下の書類を取り付け、応募と同時に提出してください。

ア. 所属日系団体からの推薦状…正本1通

※所属団体がない場合は提出不要ですが、応募を機会に近辺の日系団体とコンタクトを取っておくことが望ましいです。

イ. 大学在籍証明書…正本又は写しの公正証書1通

ウ. 大学の成績証明書…正本又は写しの公正証書1通

(3) 所有していれば、以下の書類も応募と同時に提出してください。

ア. 日本語能力試験認定書等日本語能力に関する証明書類…写し1通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

イ. TOEIC、TOEFL 等英語能力に関する証明書類…写し1通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

ウ. 来日に使うパスポートの写し(査証や出入国記録が記されている全てのページ)

(注1) 上記(1)のア、エ、オの書類は必ず本人が作成してください。

(注2) 上記(1)から(3)までの書類がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、またすべての書類が募集締切日(各国によって異なる)までに完全に揃っていない場合は受理しません。

(注3) 提供された個人情報は、①合否の判定、②研修受入の手続き、③事業実績の取りまとめ等の統計資料の作成のみに利用します。

8. 募集期間

JICA 在外事務所への応募書類提出締切日は各在外事務所が決めます。各在外事務所の指示に従ってください。

応募の時点でパスポートを持っていない応募者は、ただちにパスポート取得の手続きを開始することをお勧めします。合格通知を受けてからパスポートの手続きを始めると、来日に必要なビザ取得が間に合わない可能性があります。ビザ取得が間に合わない場合には、研修への参加ができなくなることがあります。

※ただし、合否に関わらず、パスポート取得経費について JICA は負担しません。

9. 所要経費の支給

JICA は規程に基づいて次の経費を負担します。

- (1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際空港施設使用料も JICA が負担します。）
- (2) 本邦国際空港と宿泊施設の移動に係る経費
- (3) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中の生活費（食費）
- (4) 宿泊施設の利用料金
- (5) 海外旅行保険（往路・研修期間・帰路に係る期間）

※原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着までが 保険対象期間です。

※本邦滞在中は、技術/日系研修の研修員と同様、メディカルカードを作成します。

研修中の傷病については、研修スタッフが同行しメディカルカードが使える病院に行きますので、研修員に診療費の支払が生じることはありません。なお、既往歴や歯の治療は対象外です。

- (6) 所外研修、大学での研修、研修旅行のために必要な交通費
- (7) 研修先に対する研修経費

10. 研修報告

研修員は研修修了時に本研修について報告書を提出するものとします。（製本の上、受入大学などの研修先や JICA 在外事務所に配布します。）また、帰国後に日系団体等での報告会を行い、実施報告書を JICA 在外事務所に配布してください。

11. 研修員の資格取消

研修員が次の事項に該当する場合、JICA はその資格を取り消すことがあります。この場合、(6) および (8) の事項を除き帰国に必要な経費は研修員の自己負担とします。

- (1) JICA の規則、指示および決定に従わなかったとき
- (2) 研修先の規則に違反した場合
- (3) 日本国の法令に違反した場合
- (4) 本人の故意、重大な過失または怠慢等により、研修を継続することが困難と認められるとき
- (5) 本人の都合により研修を中断したとき
- (6) 心身の著しい障害、傷病等のために研修を継続することが困難と認められるとき
- (7) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- (8) その他 JICA がやむをえないと認める事由があるとき

12. その他の留意事項

- (1) 家族の同伴は認められません。原則として、往路・復路とも研修員が集合し、集団で渡航します。

- (2) フライトスケジュールについては JICA が決定の上、合格者に対して連絡します。
- (3) 滞在延長や帰路変更は認められません。研修終了後は JICA が定めるスケジュールで帰国します。
- (4) 応募者は、事業対象国の国籍を有すること（あるいは日本の国籍を有すること）が望ましいです。
- (5) 合格者は「肖像権および個人情報使用承諾書」を提出してください。本研修期間中、JICA が契約するカメラマン又は委託先が、広報（各種報告書含む）用として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、署名してください。
- (6) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、研修プログラムの変更、または来日中止となる可能性があります。なお、入国時に有効なワクチン接種証明書、または出国前 PCR 検査証明書が必要な場合は、研修員各自で責任をもって準備してください。最新の水際対策に伴う必要な各種書類・検査に関わる費用は自己負担となります。
- (7) 2023 年度は JICA 横浜センターの改修工事を予定していることから、横浜センター外での研修実施を予定しています。

以上

別紙：「日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）」応募書類様式

- (1) 身上書（様式第 2 号）
- (2) 健康診断書（様式第 3-A 号：和文、様式第 3-B 号：英文）
- (3) 誓約書（様式第 4 号）
- (4) 「本研修の参加目的と計画」（様式第 5 号）

※様式第 1 号は JICA 在外事務所が作成する書類のため、本募集要項には添付していません。

独立行政法人 国際協力機構 中南米部

〒102-8012 東京都千代田区二番町 5-25 二番町センタービル

TEL:03-5226-6660 (代表)

<http://www.jica.go.jp/>



2024 年 3 月